



ケセナキという発音のこのタイトルはスペイン語でここで何をしているのだろうか?という意味を持つ。雙峰祭のコンサートで聴いてたく感動したLejos del amorという楽曲の歌詞から取った。当初は同じく南米由来というイメージに便乗し大好きな動物であるチンチラを金魚の群れの中に異時同図法で描くという安直な構想だった。一方で自我の無い絵を描きたいという欲求もその時強かった。ひとまず絵画を絵画たらしめられる最低限の構造を保つため、自我の無さを支えるものとして反復的に金魚を配置した。自我の無さを得るために垂れるに任せた絵の具が作り出した染みを足掛かりに画面の情報量を育てた。ところがその過程でチンチラは自然と淘汰されてしまった。結果、大好きなチンチラを絵画の外に弾き出してしまうほどの強い自我の痕跡という当初の欲求とは真逆の画が画面に残された。まさにここで何をしているのだろうか?という状態の作品であった。

日本画

H116.7cm×W218.1cm 1点

令和8年 筑波大学芸術専門学群 卒業研究・作品集より

このコーナーでは、筑波大学芸術系ならびに同大学の芸術専門学群を卒業された方々のご協力のもと、芸術作品を掲載しています。